

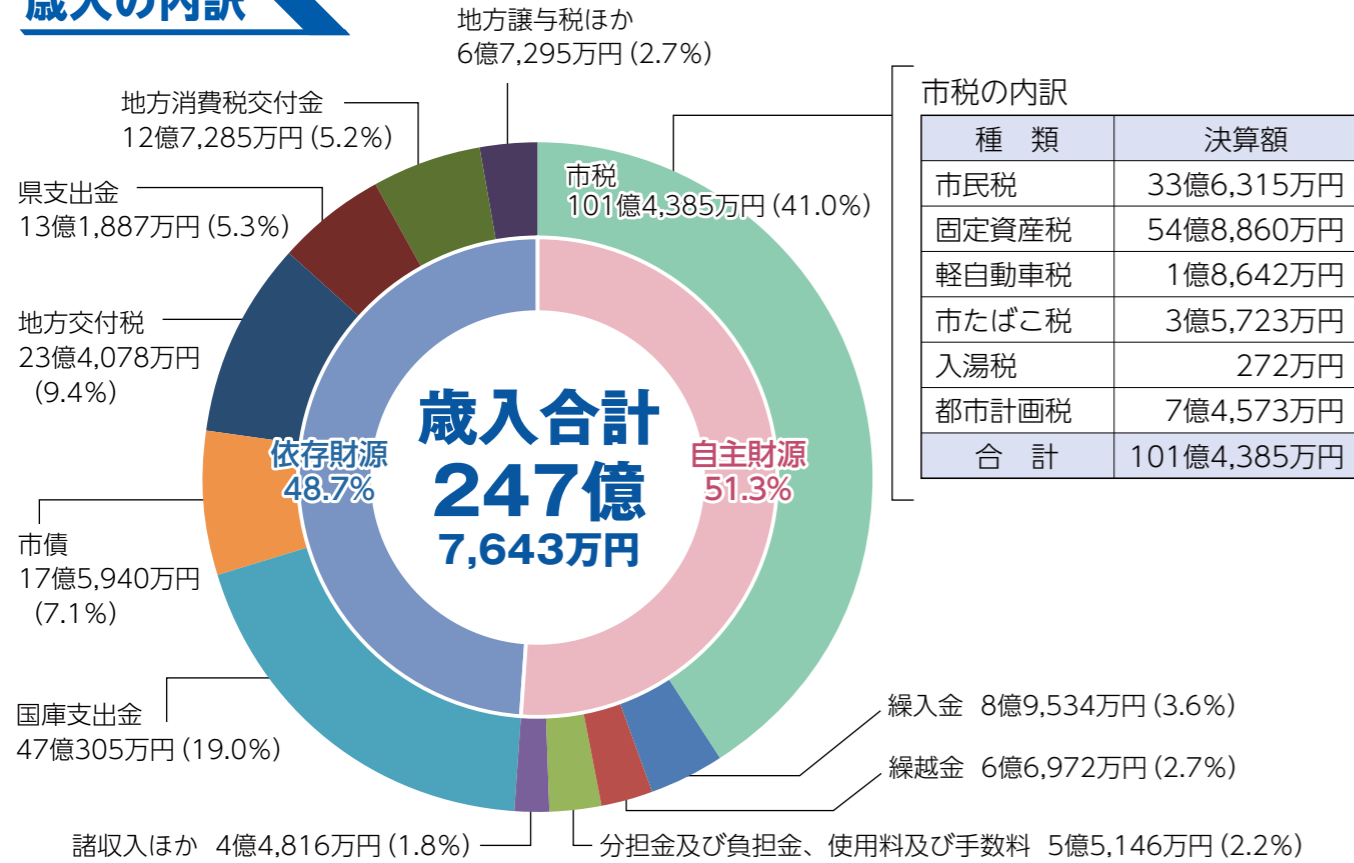
# 令和4年度 決算

令和4年度の一般会計、特別会計、企業会計の決算が、市議会で認定されました。

令和4年度は、行政経営の重点方針を踏まえ、第2次総合計画後期基本計画の初年度として、組織機構改革による推進体制の強化を図るとともに、事業の「選択と集中」により、限られた財源の有効かつ適切な活用に努め、新型コロナウイルス感染症への的確な対応とポストコロナ社会における、持続可能な行財政運営に取り組みました。

「令和4年度つうしんぼ」では、皆さんに納めていただいた税金や国・県支出金がいくらで、どのように使われたのか、また市の財政状況はどうなっているのか、詳しくお伝えします。

## 歳入の内訳



歳入は、前年度より約3億9千万円減少した247億7,643万円となりました。地方財政の自主性を確保する自主財源は、市税収入が約1億5千万円、繰入金が約2億9千万円の増となったほか、前年度繰越金が約1億5千万円、諸収入ほかに含まれる寄附金が約8千万円の増となり、前年度より約4億7千万円増加し、構成比は歳入全体の51.3パーセントとなりました。依存財源については、国庫支出金は、前年度に引き続き新型コロナウイルス感染症対策における子育て世帯臨時特別給付金や住民税非課税世帯臨時特別給付金に係る補助金の給付があったものの約4億6千万円の減、市債は約5億5千万円の減、地方交付税は約2億8千万円の増となったことで、前年度より約8億6千万円減少となり、構成比は歳入全体の48.7パーセントとなりました。

## ●歳入額を市民1人あたりに換算すると 50万2,646円



※市民1人当たりの歳入および歳出額は、令和5年4月1日現在の人口(49,292人)で計算しています。

# 一般会計

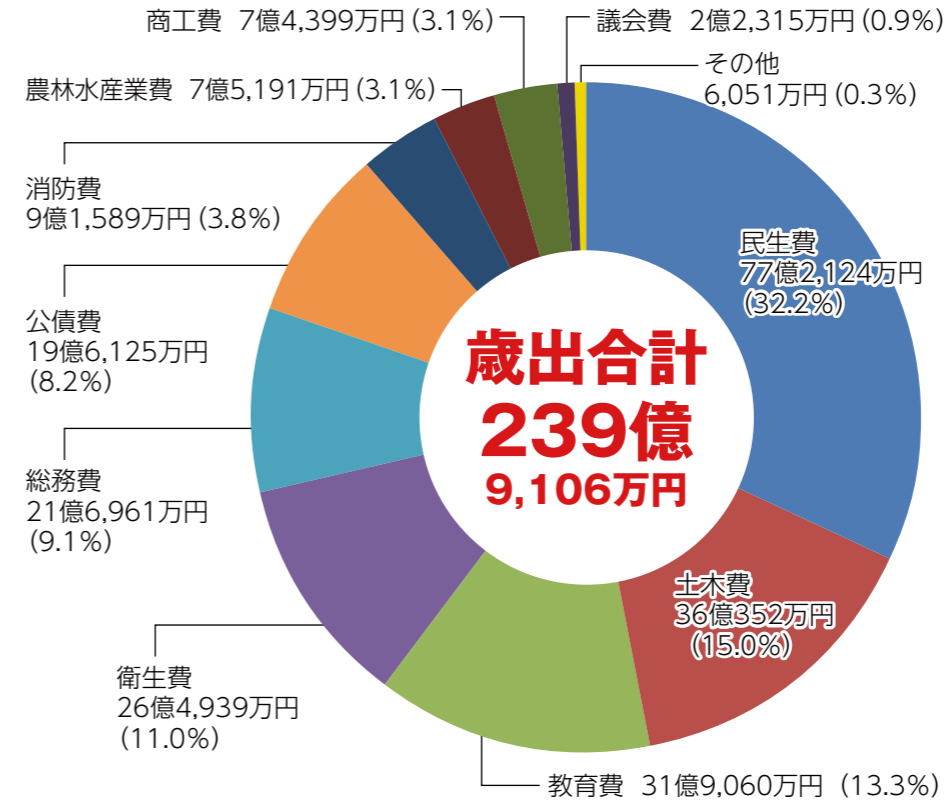
一般会計の歳入は247億7,643万円、歳出は239億9,106万円、歳入歳出差引額は7億8,537万円となり、翌年度に繰り越す財源を控除した実質収支額は6億9,426万円となりました。

**歳入決算額 247億7,643万円**  
(対前年度比 約3億9,066万円の減)

**歳出決算額 239億9,106万円**  
(対前年度比 約4,368万円の増)

**実質収支額 6億9,426万円**

## 歳出の内訳(目的別)



**用語の解説**

- 民生費…各種福祉事業に使った費用
- 教育費…学校教育や社会教育などに使った費用
- 土木費…道路やまちづくりなどに使った費用
- 総務費…地域振興や一般事務などに使った費用
- 衛生費…市民の健康管理やごみ処理に使った費用
- 公債費…借入金返済や利子支払いに使った費用
- 消防費…消防施設や消防団運営に使った費用
- 農林水産業費…農業や林業の振興に使った費用
- 商工費…観光や商工業の振興に使った費用
- 議会費…市議会の運営に使った費用
- その他…勤労者の支援、災害復旧などに使った費用

歳出は、前年度より約4千万円増でほぼ横ばいの239億9,106万円となりました。目的別で見ると、土木費は亀山駅周辺整備事業の増などで約7億2千万円、商工費は経済支援対策事業の増などで約3億1千万円の増、教育費は図書館整備事業の増などで約2億7千万円の増となりましたが、民生費は子育て世帯臨時特別給付金給付事業、住民税非課税世帯等臨時特別給付金給付事業などの減により約7億1千万円の減、総務費は、前年度は普通交付税の追加交付に伴う減債基金への積立があったことや退職手当の減に伴う一般職員人件費の減などにより約5億円の減となったことなどが主な要因です。

## ●歳出額を市民1人あたりに換算すると 48万6,713円

